

野生イノシシへの豚熱経口ワクチン散布の実施について

東京都では、国内及び都内で飼育する豚の豚熱（C S F 旧称：豚コレラ）発生予防のため、農林水産省の指針に基づき、野生イノシシに対する経口ワクチンの散布を実施します。

使用するワクチンは、国の食品安全委員会において安全性が評価されており、散布したワクチンについては、一定の期間ののち、回収いたします。

つきましては、住民の皆様のご理解、御協力をお願いいたします。

（イメージ）



環境からウイルスがいなくなる



豚への感染がなくなる

野生イノシシ豚熱（CSF、旧称 豚コレラ）経口ワクチンQ & A

Q 1. なぜ、イノシシに豚熱の経口ワクチンを散布するのか

A 1. 国内の豚で豚熱が各地で発生した要因の一つとして、野生イノシシからの豚熱ウイルスの伝播が挙げられています。

現在国内で発生している豚熱は病原性が弱い（死亡率が低い）のですが、伝染する力が強いため、知らず知らずのうちに感染が拡大する特徴があります。これは、豚だけでなく、イノシシにも同様の傾向が見られることから、野生イノシシでも豚熱の感染が拡大している状況です。野生イノシシで感染が拡大した場合、環境中でのウイルスの量が多くなるため、豚を飼育する農場にウイルスが持ち込まれる機会が増加し、農場で豚熱が発生する恐れがあります。

環境中の豚熱ウイルスを低減、無くすため、野生イノシシの捕獲と合わせ、野生イノシシへのワクチン散布を実施することとなりました。

Q 2. 経口ワクチンはどのようなものか

A 2. ワクチンの入ったアルミ包の周りに、トウモロコシを固めた四角い形をした固形のもので、人体には無害です。



Q 3. 経口ワクチンはどこにどの様に散布するのか

A 3. イノシシが生息している山林等の土の中に埋めます。散布場所にまず餌付をしてからワクチンを埋め、イノシシに摂取させます。ただし、イノシシの生息場所であることが確認されている場所では餌付けを行わない場合もあります。

Q 4. ワクチン散布のスケジュールは？

A 4. ワクチンの散布に原則 5 日間、ワクチンの散布 5 日以降に回収作業を行います。

Q 5. 散布の回数は？

A 5. 前期、後期の 2 期に分けて散布します。

各時期に 2 回散布を行うため、年 4 回散布を実施します。

Q 6. 散布後のワクチンはどうなるのか？

A 6. イノシシが食べなかったワクチンやアルミ包は回収します。

また、ワクチンは自然環境下では、4 日程度で効果がなくなります。

Q 7. 散布地域はどのように決めたのか？

A 7. 感染野生イノシシが発見されている県及びその県を囲むように、国が散布地域を指定します。そのため、今後も感染野生イノシシの感染確認場所が拡大する場合は、散布地域の見直しが行われます。東京都では、一年を通じてイノシシが捕獲されている地域、イノシシの出没が確認されている地域を散布地域としております。

Q 8. 他の野生動物が摂取しても大丈夫か？

A 8. 他の動物が摂取しても影響はありません。

Q 9. ワクチンを摂取したイノシシは食べても大丈夫か？

A 9. お肉の安全性に影響はありません。国の食品安全委員会においても安全性が評価されています。

※参考

○農林水産省ホームページ

[野生イノシシにおける豚熱対策：農林水産省](#)

○東京都での野生イノシシの豚熱検査状況

[2024-12-03-145010-536](#)

豚熱経口ワクチン散布についてのお問合せ先

東京都産業労働局農林水産部食料安全課CSF対策担当

TEL：03-5320-4845 FAX：03-5388-1456